

平成29年度

# 事業報告書

学校法人 大同学園



## 目次

## 1. 学校法人の概要

(1) 学校法人大同学園創設の経緯	1 頁
(2) 沿革	1
(3) 設置する学校の理念と教育目標	3
(4) 設置する学校・学部・学科等	4
(5) 学校・学部・学科等の定員、学生生徒数の状況	4
(6) 役員・評議員・教職員の概要	5
(7) 学園組織構成図	6

## 2. 事業の概要

(1) 大同大学	7
【教育・研究活動の特徴】	7
【国際交流】	10
【産学連携】	10
【学生の活動実績(強化クラブ・その他クラブ)】	10
(2) 大同大学大同高等学校	11
【全般】	11
【教育活動】	11
(3) 施設等の状況	12

## 3. 財務の概要

(1) 当該年度の財務状況		
①教育活動収支差額	13	
②基本金組入前収支差額	13	
③固定資産取得額	13	
④フリーキャッシュフロー	13	
(2) 主な財務指標の推移	14	
(3) その他 有価証券・借入金・寄付金・関連当事者等との取引の状況	15	
資金収支計算書	16	
活動区分資金収支計算書	17	
事業活動収支計算書	18	
貸借対照表	19	
財産目録	20	

## 1. 学校法人の概要

### (1) 学校法人大同学園創設の経緯

学校法人大同学園は、大同製鋼(株)(現在の大同特殊鋼(株))第4代社長下出義雄により昭和14年(1939)の「財団法人大同工業教育財団」創設、「大同工業学校」開校に始まります。

下出義雄は、(株)電気製鋼所初代社長下出民義の長男で、大正6年(1917)に(株)電気製鋼所取締役就任。企業経営に携わるも、教育への情熱は盛んで、父に協力して大正12年(1923)に東邦商業学校の設立にかかわりました。昭和6年(1931)に(株)大同電気製鋼所第4代社長に就任してからも教育に対する情熱はますます高まり、「私は今まで物を生産することに全力を注いできたが、これからは技術者を養成して社会、国家に貢献したい」との信念のもと、工業学校設立を決意しました。昭和13年(1938)10月の大同製鋼(株)定期株主総会で、工業学校設立に関する寄附行為について承認を得て、同年11月文部省(現在の文部科学省)に申請。昭和14年(1939)1月に「財団法人大同工業教育財団」が設立され、同月、「大同工業学校」の設置認可を経て、同年4月に甲種工業学校として開校し、今日にいたる学園の歴史がスタートしました。

### (2) 沿革

#### ・大同大学大同高等学校の沿革(概略)

昭和14年4月に開校した大同工業学校はその後、昭和23年3月に新制高等学校に認可され大同工業高等学校となり、また、昭和48年4月には普通科を新設しました。なお、校名につきましては、昭和51年に大同高等学校に、平成14年に大同工業大学大同高等学校に、さらに平成21年に大同大学大同高等学校に変更しております。

(1939)	昭和14年	1月	財団法人大同工業教育財団を設立
		4月	財団法人大同工業教育財団により大同工業学校を開校
(1948)	昭和23年	3月	新制高等学校に認可され大同工業高等学校となる
(1961)	昭和36年	7月	学校法人大同学園と改称
(1962)	昭和37年	4月	知多市岡田に知多分校開校
(1973)	昭和48年	4月	普通科を増設
(1976)	昭和51年	3月	大同高等学校に校名を変更
(1997)	平成9年	4月	男女共学になる
(2002)	平成14年	4月	大同工業大学大同高等学校に校名を変更
(2003)	平成15年	4月	名古屋校舎新キャンパス完成
(2004)	平成16年	4月	知多分校を名古屋校舎へ統合
(2009)	平成21年	4月	大同大学大同高等学校に校名を変更
			大同グランドスポーツコート竣工

## ・大同大学の沿革(概略)

中部地区の産業界[大同特殊鋼(株)、中部電力(株)、名古屋鉄道(株)など31社]の強い要望に応え、昭和37年に大同工業短期大学を設置しました。その2年後の、昭和39年には、同短期大学の学生募集を停止するとともに、機械工学科と電気工学科の2学科からなる大同工業大学を設置しました。以来、社会の要請、時代のニーズを反映し、学科増設によって工学部の充実を図りつつ、平成2年には大学院を開設、平成14年には情報学部情報学科を設置し、現在は、2学部7学科、大学院2研究科6専攻としました。なお、校名につきましては、平成21年に大同工業大学から大同大学に変更しております。

(1962)	昭和37年	4月	大同工業短期大学を設置 機械科を置く
(1963)	昭和38年	4月	電気科を増設
(1964)	昭和39年	4月	大同工業大学を設置 機械工学科、電気工学科の2学科を置く
(1973)	昭和48年	4月	情報処理センターを開設(現、情報センター)
(1975)	昭和50年	3月	白水校舎竣工
		4月	建設工学科を増設
(1983)	昭和58年	7月	滝春校舎竣工
(1985)	昭和60年	4月	応用電子工学科を増設
(1989)	平成元年	9月	新図書館を竣工
(1990)	平成2年	4月	大学院工学研究科修士課程を設置 機械工学専攻、電気・電子工学専攻、建設工学専攻の3専攻を置く
(1995)	平成7年	4月	大学院工学研究科に博士後期課程を設置 材料・環境工学専攻を置く
(1999)	平成11年	3月	石井記念体育館(大学体育館)竣工
(2000)	平成12年	4月	産学連携共同研究センターを開設
		12月	滝春校舎新キャンパス竣工
(2001)	平成13年	4月	情報機械システム工学科、都市環境デザイン学科を増設 電気工学科を電気電子工学科に名称を変更 応用電子工学科を電子情報工学科に名称を変更 建設工学科を建築学科に名称を変更 創造製作センター・授業開発センターを開設
(2002)	平成14年	4月	情報学部情報学科を設置 エクステンションセンターを開設
(2003)	平成15年	4月	学習支援センターを開設
(2005)	平成17年	4月	大学院情報学研究科修士課程に情報学専攻を設置
		10月	燃料電池研究センターを開設
(2006)	平成18年	3月	滝春校舎にS棟を竣工
		4月	工学部ロボティクス学科を増設 大学院工学研究科修士課程に建築学専攻、都市環境デザイン学専攻の2専攻を増設
(2007)	平成19年	4月	研究支援センターを開設
(2008)	平成20年	2月	においかおり研究センター開設
		4月	情報学部に情報システム学科、情報デザイン学科を増設
(2009)	平成21年	4月	大同大学に校名を変更
(2010)	平成22年	4月	工学部に総合機械工学科を増設
(2010)	平成22年	11月	滝春校舎にゴビーステージ竣工
(2012)	平成24年	4月	情報学部に総合情報学科を増設

## (3) 設置する学校の建学の精神と理念と教育目標

## ・大同大学大同高等学校

■建学の精神	社会で有為な人材の育成	
■教育目標	明朗闊達で、確かな学力を備え、社会で有為な人間の育成	
	(1) 明朗で闊達、自律的で品位ある人間を育成する。 (2) 確かな学力を備えた人間を育成する。 (3) 強い責任感をもち、社会で有為な人間を育成する。 (4) 他の人々や自然と共生することが出来る人間を育成する。 (5) 生徒一人ひとりの行き方を視野に入れた進路指導を推進する。	
■教育信条	汗と愛	自己に課せられた使命を自覚し、勤労精神を育成すると共に如何なる立場においても、人を尊び人を愛し、融和一致し得る人格の育成を図る。
	質実	質実で純潔、併せて清新明朗な気風を養い、国家及び社会の有為な人物となるように努める。
	中庸	健全な精神と正しい判断力を持ち、左右何れにも偏せず中庸の道を堅持し、良い社会人となるように努める。
	創意責任	工業技術の錬磨と独創的な研究に向かって日夜精進する。自主的かつ積極的に行動し、責任を重んずる人物となるよう努める。
■指導の方針「大同三訓」	時を守る 場を整える 礼を尽くす	

## ・大同大学

■建学の精神	産業と社会の要請に応える人材の養成	
■理念	実学主義	
	・大同大学は実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献します	
■教育目標(学位授与の方針)		
	(1) 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている ・健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、コミュニケーションを通じて他者と協働する力を身につけている。	
	(2) 豊かな教養を身につけている ・教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度が備わっている。	
	(3) 確かな専門性を身につけている ・自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、問題解決のために応用できる。	
	(4) 豊かな創造力を身につけている ・獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている	

(4) 設置する学校・学部・学科等

(平成29年5月1日現在)

【大同大学大同高等学校】 所在地：名古屋市南区大同町2丁目21番地

課程名	学科名	摘要
全日制課程	普通科	
	機械科	
	電子情報デザイン科	

【大同大学】 所在地：名古屋市南区滝春町10番地3

学部等名	学科等名	摘要		
工学部	機械工学科			
	総合機械工学科			
	電気電子工学科			
	建築学科			
	都市環境デザイン学科	平成29年度廃止		
情報学部	情報システム学科			
	情報デザイン学科			
	総合情報学科			
大学院	工学研究科	修士課程	機械工学専攻	
		電気・電子工学専攻		
		建築学専攻		
		都市環境デザイン学専攻		
	博士後期課程	材料・環境工学専攻		
情報学研究科	修士課程	情報学専攻		

(5) 学校・学部・学科等の定員、学生生徒数の状況

【大同大学大同高等学校】

単位：人

課程名	学科名	平成29年5月1日現在				平成29年度 卒業生数	平成30年5月1日現在			
		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
全日制課程	普通科	240	231	720	679	213	240	265	720	719
	機械科	160	167	480	524	139	160	172	480	561
	電子情報デザイン科	80	72	240	261	94	80	70	240	229
高校計		480	470	1,440	1,464	446	480	507	1,440	1,509

【大同大学】

単位：人

学部等名	学科等名	平成29年5月1日現在				平成29年度 卒業生数	平成30年5月1日現在					
		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		
学部	工学部	機械工学科	120	141	440	502	108	120	125	480	505	
		総合機械工学科	110	116	440	518	113	110	117	440	498	
		電気電子工学科	90	90	350	383	90	90	104	360	380	
		建築学科	165	189	620	733	160	165	202	660	748	
		都市環境デザイン学科	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
	小計		485	536	1,850	2,137	472	485	548	1,940	2,131	
	情報学部	情報システム学科	120	141	460	555	120	120	133	480	548	
		情報デザイン学科	110	119	420	475	110	110	124	440	480	
		総合情報学科	75	86	300	317	63	75	56	300	300	
		小計		305	346	1,180	1,347	293	305	313	1,220	1,328
学部計		790	882	3,030	3,484	765	790	861	3,160	3,459		
大学院	工学研究科	修士課程	機械工学専攻	8	17	16	34	16	8	23	16	41
			電気・電子工学専攻	6	2	12	3	1	6	4	12	6
			建築学専攻	5	0	10	3	3	5	5	10	5
			都市環境デザイン学専攻	5	4	10	4	0	5	1	10	5
			小計		24	23	48	44	20	24	33	48
	博士後期課程	材料・環境工学専攻	3	1	9	2	0	3	0	9	2	
	情報学研究科	修士課程	情報学専攻	6	8	12	11	3	6	2	12	9
大学院計		33	32	69	57	23	33	35	69	68		
大学計		823	914	3,099	3,541	788	823	896	3,229	3,527		

※工学部都市環境デザイン学科は、平成29年度廃止

※工学部総合機械工学科は、平成30年度より機械システム工学科に名称変更

(6) 役員・評議員・教職員の概要 (平成30年3月31日現在)

① 役員概要

定員数… 理事 10人 監事 3人

役職名	氏名	勤務別	摘要 [主な現職]
理事長	奥村 博司	常勤	平成18年8月副理事長就任 平成19年8月理事長就任
常務理事	高村 誠一	常勤	平成26年8月理事就任 平成27年8月常務理事就任[大同学園法人本部長]
理事	神保 睦子	常勤	平成29年4月理事就任[大同大学長]
	服部 保孝	常勤	平成27年4月理事就任[大同大学大同高等学校長]
	大矢 郁夫	常勤	平成20年8月理事就任[大同学園法人副本部長]
	徳納 一成	常勤	平成29年4月理事就任[大同大学副学長]
	嶋尾 正	非常勤	平成29年8月理事就任[大同特殊鋼(株)代表取締役会長]
	三田 敏雄	非常勤	平成29年4月監事就任[中部電力(株)相談役]
	今井 正	非常勤	平成28年8月理事就任[新日鐵住金(株)執行役員]
監事	鈴木 清美	非常勤	平成29年8月理事就任[名古屋鉄道(株)常務取締役]
	盛田 國四郎	非常勤	平成29年4月監事就任[金城ライト(株)代表取締役会長]
	板摺 康宏	非常勤	平成28年8月監事就任[大同マシナリー(株)代表取締役社長]
	今井 建一	非常勤	平成27年8月監事就任

② 評議員の概要

定員数… 21人

選任区分	氏名
職員	井上 孝司
	大嶋 和彦
	鹿島 孝之
	川原 雅寛
	徳納 一成
	丸山 弥生
	高橋 鉄男
	渡邊 慎一
	山田 博之

選任区分	氏名
卒業生	三宅 洋
	下郷 正二
学生・生徒保護者	成瀬 和実
	安藤 茂幸
学識経験者	荒川 克彦
	猪村 美之
	奥村 博司
	小菅 茂
	田中 清貴
	戸松 茂行
	宮嶋 晃
	水野 伸哉

③ 教職員の概要

(平成29年5月1日現在)

【大同大学大同高等学校】 校長：服部 保孝

単位：人

区分	高校計	
教員	校長	1
	教頭	3
	教諭	59
	講師	10
	計	73

区分	高校計
職員	5

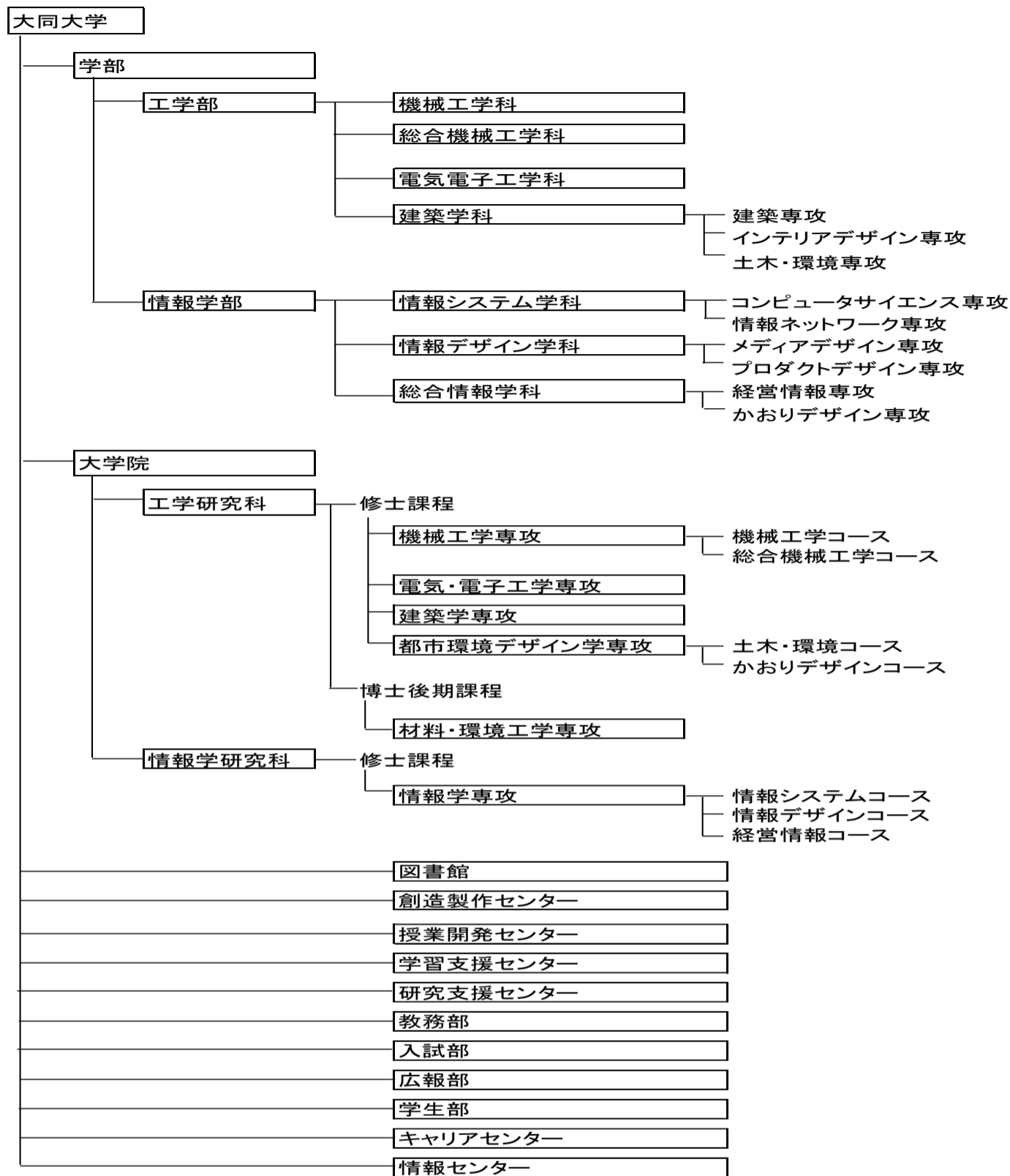
【大同大学】 学長：神保 睦子

単位：人

区分	学長	副学長	工学部	情報学部	教養部	大学計	
教員	学長	1				1	
	副学長		3			3	
	教授			34	24	12	70
	准教授			13	7	8	28
	講師			7	4	3	14
計	1	3	54	35	23	116	

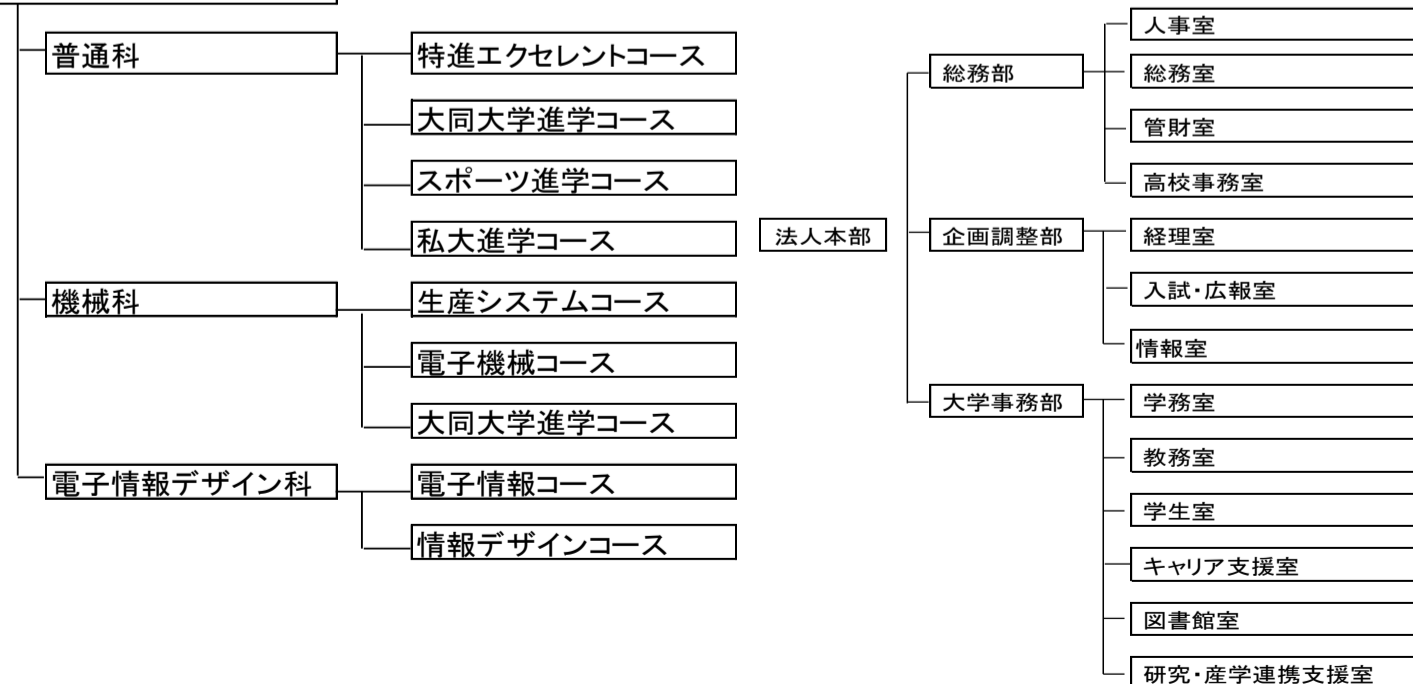
区分	大学計
職員	75

(7) 学園組織構成図 (平成30年3月31日現在)



大同大学大同高等学校

学園事務組織





## 2. 事業の概要

### (1) 大同大学

本学は、「産業と社会の要請に応える人材の養成」という建学の精神の下、大学の理念を「実学主義」と掲げ、実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献しています。特に近年では、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の養成にも意識的に取り組み、社会が求める人材を送り出しています。

#### 【教育・研究活動の特徴】

##### ①愛知総合工科高等学校との連携協力に関する協定書締結

大同大学と愛知県立愛知総合工科高等学校は、高校生の視野を広げ、学修意欲を高めるとともに、大学の求める学生像および教育内容への理解を深め、かつ高校教育・大学教育の活性化を図り、人材育成に役立てることを目的として、平成29年9月に連携に関する協定を締結しました。

##### ②大学広報の強化策と広報部の設置

少子化が進行する中で大同大学を維持・発展させていくために、大学広報を戦略的に実施し、本学の特徴および魅力を広く社会に発信することを目的として広報部を設置しました。

この目的を達成するためには、本学の長所を発掘し、その取り組みを広く発信することが必要であり、大学広報に関する事項について審議するために広報委員会を併せて設置しました。

##### ③全学的なPBL科目の実施開始

平成28年度入学生から全学的にPBL (Project/Problem-Based Learning: 課題/問題解決型学習)型の授業科目を設置しました。これらの授業科目の中でも、情報学部1年次生(335人)を対象に社会人基礎力養成を目的とした「社会実践1」の授業においては、いくつかのチームに分かれ「課題発見」「課題解決」に関して議論を行い、その結果を「発表」といってを繰り返し実施し、実際の社会で必要となるチーム作業に近い取組を実施しました。

また、平成29年度は、情報学部2年生(330人)を対象に社会人基礎力要請を目的とした「社会実践2」の授業を実施し、近藤産興(株)様との連携によるご協力のもと、社員の方から課題を直接提示して頂き、チームで課題解決に取り組み、その成果の発表を行いました。学生の発表に対して厳しい意見・質疑が行われることもあり、緊張感のある発表会となりました。

この授業を通じて、学生は実社会のより実践的な評価を受けることができ、社会で必要とされるチームに必要な能力が養われました。

##### ④社会人基礎力養成科目とSAの活用

平成28年度から社会人基礎力の養成を目的として実施している「社会実践1」と「社会実践2」の授業科目においては、本学における初の試みとしてSA(Student Assistant=学部学生による授業補助者)を導入しており、当初の想定どおり、円滑な授業運営の実施に貢献しています。

また、SA自身も開始当初は戸惑いを感じていたようでしたが、次第に受講生の様子を確認し、自ら進んで働きかけをおこなえるようになり、大きく成長していることが本人からのレポート、授業担当者からの報告により確認ができています。

SAを導入することにより、円滑な授業運営のみならず、SA自身の成長も期待できることがわかりました。

#### ⑤アクティブラーニングの推進

研究授業／授業研究会を学期あたり8回実施しています。実際の授業を教員相互が参観することにより、学生が主体的に考えて学ぶことができる授業運営上の工夫を知ることができます。

また、それらを授業批評において公開することで、非常勤を含めた大同大学で教える全教員が情報共有することができる仕組みとなっています。

#### ⑥授業改善助成制度

平成13年度より「授業開発助成制度」として支援が始まり、現在は「授業改善助成制度」に変更しました。平成29年度は、より良い授業づくりに取り組む教員の計画に対して、14件1,828千円を助成しました。

授業改善の取り組み、PBL型の授業の継続的実施の支援、授業をアクティブ化するためのSA活用の各支援を行っており、アクティブラーニングの推進の役割の一端を担っています。

#### ⑦授業開発センター講演会

平成27年度より毎年外部講師を招聘し、アクティブラーニング導入のきっかけとすべく講演会を開催しています。

平成29年度は「学生を主体的な学びへ導くためのきっかけづくり」と題し、非常勤講師を含め47名が参加し、実際の講義同様、多人数でもできるグループワークを行いました。

#### ⑧入学前基礎学力教育

推薦系の入学試験による入学予定者全員が、入学前に、英語・数学・理科等の基礎学力課題を受講する入学前基礎学力教育を行っています。推薦系入学予定者の約70%が受講しており、受講生からは「わかりやすかった。」「復習になった」等、好評を得ています。

また、大同高校からの推薦系入学予定者については、2月中下旬に1クール4日間午前開講のスクリーニングを実施しています。

#### ⑨新入生オリエンテーション合宿

平成29年度は、平成28年度参加の機械工学科、総合機械工学科、建築学科の建築専攻とインテリアデザイン専攻、情報デザイン学科、総合情報学科の経営情報専攻に加え、建築学科の土木・環境専攻の新入生がオリエンテーション合宿に参加しました(計618名)。この合宿は、一泊二日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにするを目的として実施しています。本年度参加学生のアンケート結果では67.3%がこの合宿を「有意義であった」と答え、30.2%が「有意義とまではいかないが楽しかった」と回答しました。

#### ⑩学内ワークスタディ支援

学生を学内における教育支援活動や自身の社会性向上に資する活動・業務に従事させることにより、職業意識・職業観を育むとともに、経済的事情により修学困難な学生に対しての支援を行うことを目的に「大同大学学内ワークスタディに関する要項」を平成29年3月に制定し、平成29年4月に施行しました。

平成29年度は、自習室(PC設置)の学生相談コーナースタッフ4名と、機械工学科1年生の学修をサポートする先輩学修支援アドバイザー12人を採用し、総額160万円を奨学金として給付・支援しました。

#### ⑪保護者向け就職セミナーの開催

学生の就職支援は、大学だけでなく保護者の協力も重要であり、学生の就職活動状況について、保護者にも知っていただく機会とし、平成29年12月1日(土)に「保護者向け就職セミナー」を開催しました。このセミナーには、133組(187名)の保護者が参加し、「就職活動を終えた学生のパネルディスカッション(就活体験談)」、「各学科専攻の教員との懇談会」等を実施しました。

## ⑫資格取得支援(開講講座の充実)

平成29年度は、就職活動支援講座を4講座(昨年度2講座)、資格取得支援講座を43講座(昨年度41講座)、合計47講座を教育課程外の講座として開講しました。

就職活動支援講座は、公務員試験対策講座2講座を開講しました。また、資格取得支援講座では、国家資格に関する講座20講座、民間資格に関する講座17講座、公的資格に関する講座5講座、語学資格に関する講座1講座を開講しました。

なお、以上の資格取得講座の受講料の一部や受験料の一部を本学後援会の援助を受けて学生に返還しています。

## ⑬学内企業説明会

学内企業説明会は、例年、キャリアセンター主導で開催していたが、平成29年度はキャリア委員会にて学内企業説明会等の有り方・方針等を提示・議論の後、各学科専攻等の意向に即した招待企業の選出や運営方法について見直しを行いました。また、建設業界から強い要望による本学学生への求人に鑑み、平成31年3月卒業・修了見込学生対象の学内企業説明会は、次の日程とし、前年度より約20社、上回る550社の企業等が参加する過去最大規模の合同企業説明会を開催となりました。

A日程(建設業界):平成30年3月8日(木)・9日(金)／68社

B日程:平成30年3月13日(火)～3月15日(木)／394社

C日程:平成30年5月15日(火)～5月18日(金)／88社

## ⑭インターンシップの充実と学生の意識改善

早期化する学生の就職活動に即し、学生の公募制(1・2Day)と単位認定制のインターンシップに対する低学年次(就職力アップセミナー／2年次生就職ガイダンス)からの意識づけ、マナー・モラル面の指導強化を行い、学生のインターンシップへの積極的な参加を促す指導を行いました。

## ⑮キャリア教育、就職ガイダンスの充実

教育課程外のキャリア教育及び就職ガイダンスを次のとおり実施しました。

## (1) 就職力アップセミナー(対象:学部1・2年次生)

低学年次(1・2年次生)では、各学期(計4学期)の月1回、「就職力アップセミナー」を開講しています。このセミナーは、社会で求められる重要な力の一つである「コミュニケーション力」(読む・書く・聴く・話す)について4学期に亘って学ぶことをベースに、進路決定までの4年間の流れを理解したうえで、低学年次からできる就職活動準備を自ら定めることにより、職業観の醸成を目指しています。

## (2) 就職ガイダンス(対象:学部3年次生、大学院1年次生)

3年次生等では、この時期を本格的な就職準備活動期と位置づけ、「自己を知る」、「業界・企業を知る」、「就職活動のテクニックを知る」ことを基軸とした年間11回の就職ガイダンスを行っています。またこれらと並行して、少人数による「面接・グループディスカッション対策」や「自己紹介書の書き方」等のフォローアップ講座を年間11回開催しています。

以上に加え、大学院1年次生には、4・11月に院生限定の就職ガイダンス(座学)と12・1・2月に面接・グループディスカッションの対策講座を開催しました。

## (3) 就職先内定者ガイダンス(対象:学部4年次生、大学院2年次生)

内定を得た学生を対象に、学生の早期離職を防止するため、社会人としての心構えと社会人基礎力の再点検を目的としたガイダンスや労働法の基礎知識を理解させるガイダンスを実施しています。

## ⑯ラーニングコモンズ利用状況

ラーニングコモンズは、図書館の学習閲覧室、グループ閲覧室、グループAV室に設置しています。学習閲覧室には、3人掛けティアーテーブル12台、荷物棚付き椅子36脚、ホワイトボード12台を設置しました。グループ閲覧室には、4人掛けテーブル4台、荷物棚付き椅子16脚、ホワイトボード4台を設置し、主にアクティブラーニング型授業の授業時間外の協同グループ学習に対応しています。グループ学習ができるスペースであることを強調して案内した事と、机・椅子の配置換えが容易な家具に変更した事により、利用率は上がり、利用者に人気のスペースとなっています。

また、グループAV室は、メモ台と荷物棚付きの椅子と、ホワイトボード2台を設置し、プロジェクターによる映像投影を可能にした定員30名の施設で、卒業研究発表の練習等に利用されています。今年度、老朽化した映像音響機器(プロジェクター、スクリーン、スピーカー等)を更新しました。

## 【国際交流】

## ①韓山師範学院との学生交換留学

韓山師範学院は、中国の広東省潮州市にある110年の歴史を有する総合大学です。教員間の研究上の交流を契機に、同大学との大学間交流に関する協議を重ね、平成24年4月に学術交流協定、平成25年5月に学生交流に関する覚書を締結しました。

平成29年9月3日から9月16日まで、本学学生10人と引率教職員2人が中国に短期留学しました。また11月13日から11月24日までは、中国の韓山師範学院から大学生10人と引率教員2人を受け入れました。実験・実習や学外での工場・施設見学をベースに、留学生向けのさまざまな体験を提供した盛りだくさんの2週間になりました。

## 【産学連携】

## ①受託研究・共同研究実績

本学では、「研究支援センター」を設置し、多岐にわたる産学官金の連携・交流を通じて、社会の要請に応えるべく、公的研究機関・自治体及び民間企業との共同研究等を積極的に推進しています。平成29年度の外部研究資金の導入総額は約73百万円で、そのうち公的競争資金は34百万円、企業等からの受託研究は3件、約1百万円、共同研究は18件、約18百万円でした。

## ②知多半島生態系ネットワーク関連事業

知多半島を中心とした動植物等の生態系保全活動や環境学習活動を支援する知多半島生態系ネットワーク協議会の事務局を担当しました。平成29年度は本学の元浜グラウンドの一角にビオトープを設置しました。また、知多半島生態系ネットワークフォーラムを開催しました。このフォーラムは映像を中心とした環境保全の重要性を啓蒙する内容で、多くの聴講者から好評を得ました。

## 【学生の活動実績(強化クラブ・その他クラブ)】

## ①活動実績(強化クラブ・その他クラブ)

平成29年度の主な成績は以下のとおりです。

## ・強化クラブ

## &lt;男子ハンドボール部&gt;

東海学生ハンドボール春季リーグ戦(1部) 準優勝  
東海学生ハンドボール秋季リーグ戦(1部) 準優勝  
男女西日本学生ハンドボール選手権大会 準優勝  
全日本学生ハンドボール選手権大会3位

## &lt;女子ハンドボール部&gt;

東海学生ハンドボール春季リーグ戦(1部) 準優勝  
東海学生ハンドボール秋季リーグ戦(1部) 優勝  
全日本学生ハンドボール選手権大会 ベスト16

## &lt;バレーボール部&gt;

東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会(1部) 準優勝  
東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会(1部) 優勝  
秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 ベスト16

## ・その他クラブ

## &lt;ロボット研究部&gt;

第22回ROBOT COMPETITION SERIES“BRAVE”優勝  
第22回ROBOT COMPETITION SERIES“BRAVE”3位  
第23回ROBOT COMPETITION SERIES“BRAVE”優勝  
小型ロボット競技会 BRAVE OVER 優勝

## &lt;弓道部&gt;

愛知県下学生弓道選手権大会 女子個人 準優勝

## &lt;レーシングカート部&gt;

ROTAX MAX CHALLENGE 瑞浪シリーズ RD.2 決勝ヒート 3位

## &lt;フィギュアスケート研究会&gt;

中部学生新人歓迎フリー大会 ジュニア選手権・クラス女子 3位  
中部学生氷上競技大会 ジュニア選手権・クラス女子 3位

## &lt;空手道部&gt;

三重県大学・高等専門学校空手道選手権大会 個人組手 優勝  
三重県大学・高等専門学校空手道選手権大会 個人組手 準優勝

## (2) 大同大学大同高等学校

### 【全般】

平成29年度は、「授業見学等を活用して、生徒が主体的に学ぶ、活力ある学校作りを推進する」との重点目標を学校として掲げ、各先生が年間2回以上の授業見学を行い、「授業見学ワークシート」や「授業改善についての振り返りシート」の提出を課して、授業改善に努めました。

また、本校では普通科、工業科とも、生徒の進路希望の実現に教職員一丸となり取り組みました。結果として、就職率は100%を堅持しましたが、進学実績は特進エクセレントクラスが9名と少人数だったため、国公立大学合格者は4名と苦戦しました。しかし、運動部生徒は顕著な進学実績を残し、難関私立大学に合格者を出すことができました。

### 【教育活動】

#### ①情報教育環境整備

カンファレンスルームをアクティブラーニング型授業ができるように大改修しました。またタブレットPCを20台導入し、英語科のコミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱを中心に、ICTの整備を活用したアクティブラーニング型授業に取り組みました。

#### ②生徒指導の強化

「笑顔であいさつ、さわやか大同生」を合言葉としてあいさつ・マナー・モラル向上運動を行い、「さわやか大同生」推進プロジェクトと銘打って身だしなみを整えるために「イエローカード制」を導入しています。あいさつや服装についてはおおむね良好でしたが、遅刻者が増加しており、来年度にむけての課題となりました。

#### ③ボランティア活動及び公開講座

年間を通じて学校を挙げて実施している清掃ボランティア活動によって、身近な環境への関心を深め、地域と共生できる学校づくりを進めています。さらに、中学校や地域との共生を目指して、ニーズの高いICT講座、パソコン講座等を引き続き積極的に展開しています。

#### ④就職支援

平成29年度も学校斡旋就職率100%を達成しました。好景気の中で企業は人手不足で、求人数、求人企業数とも昨年度を上回っています。高大連携の一環として工業科を中心に、大同大学キャリアセンター職員によるキャリア支援講座を年間2回(10月、3月)実施し、早期からの将来に向けた職業選択の仕法と社会人基礎力の必要性への意識付けを行いました。

#### ⑤課外活動成績

夏のインターハイにはソフトテニス部が個人戦に出場しました。冬のインターハイでフィギュアスケートクラブが団体、個人の両部門で全国優勝するなど特筆すべき成績を収めました。

春は男子バレーボール部が全国私学大会に、女子剣道部、男子ハンドボール部が選抜大会に出場しました。

文化クラブでは、吹奏楽部が中部日本個人・重奏コンテストで優勝、写真部は平成30年度の高文連の全国大会に出場を果たしました。

#### ⑥基幹業務システム構築

入学から卒業までの学籍等を一元管理するためのシステムとして、平成30年度稼働に向け構築しました。平成30年3月には全職員に対する研修を行い、周知を図りました。

#### ⑦授業改革

授業改革WGを立ち上げ、授業改善に向けて検討を重ねました。その結果、「高校生のための学びの基礎」に向けて、平成30年度より普通科1, 2年生でベネッセのスタディサポートを取り入れることにしました。

#### ⑧工業科の施設更新

工業科施設設備WGを立ち上げ、老朽化した設備の更新プランを作成しました。

## (3) 施設等の状況

## ① 主な現有施設設備の状況

所在地	施設等	面積等(㎡)				取得価額 (千円)	帳簿価額 (千円)
		大学専用	共用	高校専用	計		
愛知県名古屋市	校舎敷地	39,484.57		20,267.21	59,751.78	2,179,136	
	運動場敷地	13,767.38	16,061.85		29,829.23	2,222,891	
	艇庫敷地	1,069.43			1,069.43	62,100	
	駐車場敷地	1,359.46			1,359.46	6,169	
愛知県知多市	校舎・運動場敷地	31,668.97			31,668.97	75,742	
愛知県東海市	運動場敷地等	20,890.00			20,890.00	885,000	
	土地 計	108,239.81	16,061.85	20,267.21	144,568.87	5,431,038	5,431,038
愛知県名古屋市	校舎等:滝春キャンパス	41,515.22	102.63		41,617.85	8,786,841	
	図書館:滝春キャンパス	3,589.94			3,589.94	995,628	
	体育館:滝春キャンパス	3,387.77			3,387.77	688,236	
	校舎等:白水キャンパス	7,686.89			7,686.89	1,543,037	
	校舎等:大同町			12,898.89	12,898.89	2,692,649	
	体育館:大同町			5,558.38	5,558.38	780,685	
愛知県知多市	校舎・柔剣道場ほか	3,940.30			3,940.30	616,420	
その他	ゼミナールハウスほか	807.49			807.49	121,863	
	建物 計	60,927.61	102.63	18,457.27	79,487.51	16,304,199	8,370,373
	構築物				435	1,675,227	571,213
	図書				278,280	1,514,721	1,514,721
	教具、校具および備品				13,645	4,376,133	1,123,056
	車輛				11台	95,152	22,341

## ② 主な施設設備の取得改善状況

単位:百万円

大学	… 教務システム更新	190
	… PC更新	149
	… B棟空調更新	28
高校	… 講義室視聴覚設備(プロジェクター)の更新	5
	… カンファレンスルーム等改修工事	40
	… 基幹システム構築	14

### 3. 財務の概要

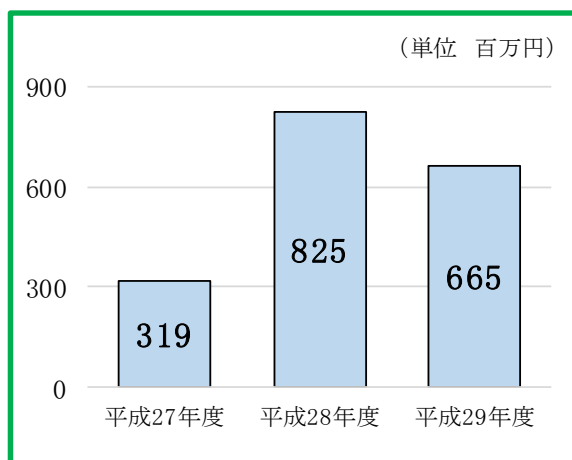
#### (1) 当該年度の財務状況

平成29年度決算

(単位 百万円)

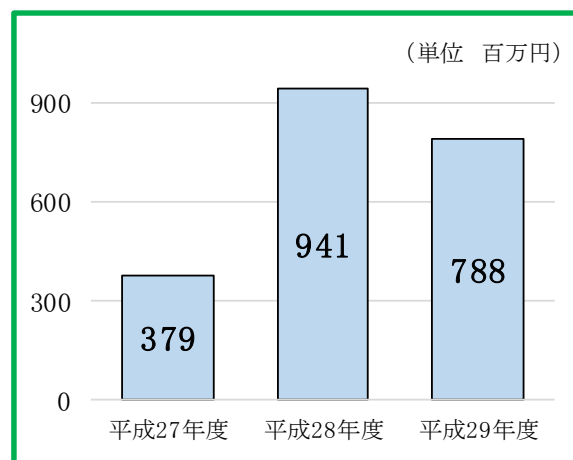
	H29年度	前年度比増減
①教育活動収支差額	665	△19.4%
②基本金組入前収支差額	788	△16.3%
③固定資産取得額	575	△35.1%
④フリーキャッシュフロー	690	18.4%

#### ① 教育活動収支差額の推移



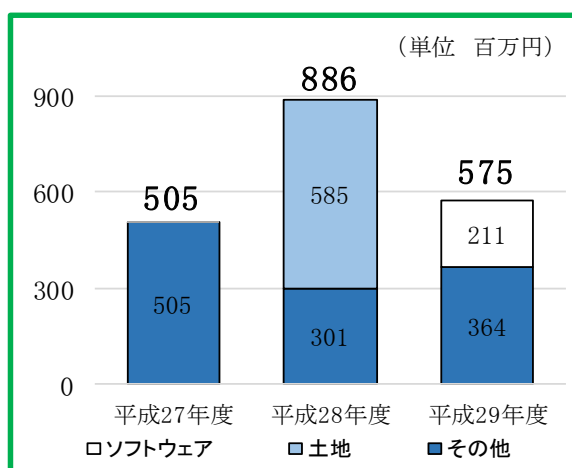
教育活動収支差額は、前年度比19.4%減少し665百万円となりました。主な要因は、大学・高校ともに補助金収入の減少、情報機器の更新等大型投資に係る一時費用の増加によります。

#### ② 基本金組入前収支差額の推移



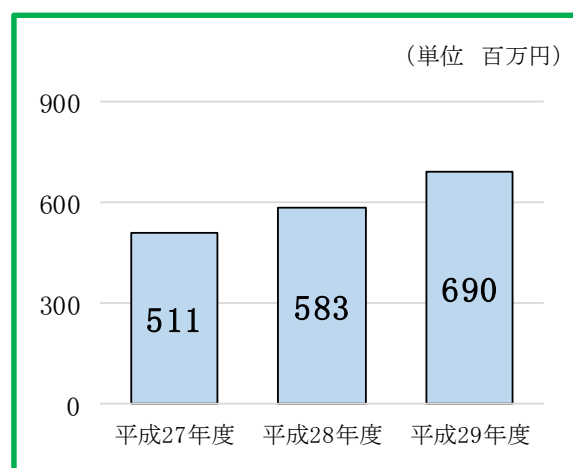
基本金組入前収支差額は、前年度比16.3%減少し788百万円となりました。主な要因は、教育活動収支差額の減少です。また、資産運用による利息収入は減少したため、教育活動外収支差額はやや減少しています。資産の除却は減少し、特別収支差額は増加しています。

#### ③ 固定資産取得額の推移



固定資産取得額は、前年度比35.1%減少し、575百万円となりました。主な要因は、前年度の土地の取得となりますが、大型投資等に係る固定資産取得額については前年度より274百万円の増加となります。主な取得資産は、大学の教務システム更新190百万円と高校の基幹システム構築14百万円です。

#### ④ フリーキャッシュフローの推移



フリーキャッシュフローは、前年度比18.4%増加し、690百万円となりました。主な要因は前年度の土地の取得となりますが、補助金収入の減少と大型投資に係る費用の増加により、フリーキャッシュフローの増加は僅かとなっております。

## (2) 主な財務指標の推移

(単位 百万円)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
事業活動収支計算書	収入	学生生徒等納付金	5,049	5,028	4,964	5,149	5,159
		経常費等補助金	724	874	857	932	884
		退職金財団交付金収入	161	190	261	175	79
		その他	398	347	259	264	262
	支出	人件費	3,547	3,584	3,473	3,492	3,512
		退職金	161	195	262	195	79
		教育研究経費・管理経費支出	2,294	2,256	2,286	2,008	2,127
		教育活動収支差額	331	404	319	825	665
	貸借対照表	経常収支差額	411	503	442	945	763
		基本金組入前収支差額	504	516	379	941	788
当年度収支差額		183	454	379	268	481	
フリーキャッシュフロー		594	914	511	583	690	
貸借対照表	資産	有形固定資産	17,708	17,201	16,947	17,210	17,037
		特定資産	3,851	3,851	3,851	3,850	3,850
		その他の固定資産	4,390	3,671	3,689	3,063	4,296
		流動資産	4,539	6,100	6,656	7,837	7,442
		総資産	30,488	30,823	31,143	31,960	32,625
	負債	固定負債	1,919	1,796	1,680	1,578	1,553
		流動負債	2,804	2,746	2,804	2,782	2,684
		総負債	4,723	4,542	4,484	4,360	4,237
	貸借対照表	基本金	29,501	29,458	29,203	29,850	30,145
		繰越収支差額	△ 3,736	△ 3,177	△ 2,544	△ 2,249	△ 1,757
純資産の部合計		25,765	26,281	26,659	27,600	28,388	

(単位 百万円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人件費比率	57.8%	57.8%	57.8%	55.5%	55.4%
学生生徒等納付金比率	78.7%	76.9%	76.8%	77.6%	79.6%
教育活動収支差額比率	5.2%	6.3%	5.0%	12.7%	10.4%
経常収支差額比率	6.4%	7.7%	6.8%	14.2%	11.8%
事業活動収支差額比率	7.7%	7.8%	5.8%	14.1%	12.1%
有形固定資産構成比率	58.1%	55.8%	54.4%	53.9%	52.2%
特定資産構成比率	12.6%	12.5%	12.4%	12.1%	11.8%
純資産構成比率	84.5%	85.3%	85.6%	86.4%	87.0%
流動比率	161.9%	222.2%	237.4%	281.7%	277.2%
負債比率	18.3%	17.3%	16.8%	15.8%	14.9%

※人件費比率	……… 人件費／経常収入
※学生生徒等納付金比率	……… 学生生徒等納付金／経常収入
※教育活動収支差額比率	……… 教育活動収支差額／教育活動収入
※経常収支差額比率	……… 経常収支差額／経常収入
※事業活動収支差額比率	……… 基本金組入前収支差額／事業活動収入
※有形固定資産構成比率	……… 有形固定資産／総資産
※特定資産構成比率	……… 特定資産／総資産
※純資産構成比率	……… 純資産／負債＋純資産
※流動比率	……… 流動資産／流動負債
※負債比率	……… 総負債／純資産



## (3) その他

## ① 有価証券の状況

単位:百万円

有価証券の種類	帳簿価額	時価	貸借対照表表示科目
公共債	500	515	退職給与引当特定資産、有価証券
事業債	4,120	4,160	施設整備準備特定資産、有価証券 第3号基本金引当資産
地方債	300	309	退職給与引当特定資産
ユーロ円債	3,900	3,882	施設整備準備特定資産、有価証券
株式	1	—	有価証券
合計	8,821		

注、上記時価は、当該期末時点での金利情勢や需給動向の変化による債券価額であります。  
 本学では、基本的に、満期日までの間に債券の価格が変動しても、満期日を迎えると額面金額の100%が償還される円建債券に限定し購入しております。

## ② 借入金の状況

単位:百万円

借入先	借入残高	利率	償還期限	担保等
愛知県私学振興事業財団	34	—	平成32年2月	なし
合計	34			

注、愛知県私学振興事業財団からの借入金は、「授業料軽減補助金」の交付に伴い、計上したものであり、貸借対照表上の資産勘定「未収入金」と両建てとなっております。

## ③ 寄付金の状況

単位:百万円

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
教育環境整備のための寄付金	大同大学後援会	60	学生課外活動援助金等
	大同大学同窓会	2	卒業パーティ援助
奨学寄付金	大同特殊鋼㈱ほか	12	学術研究資金
現物寄付金	その他	16	研究用機器備品等
合計		90	

## ④ 関連当事者等との取引の状況

財務上又は事実上の関係から、法人の意思決定に関し重要な影響を及ぼすことが明らかな関連当事者及び出資会社との取引はありません。

## 資金収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

## 収入の部

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	5,159,249	5,159,092	157
手数料収入	131,748	139,450	▲ 7,702
寄付金収入	74,554	73,617	937
補助金収入	891,434	890,974	460
国庫補助金収入	269,955	268,535	1,420
地方公共団体補助金収入	621,479	622,439	▲ 960
資産売却収入	2,320,000	2,320,000	0
付随事業・収益事業収入	41,659	37,939	3,720
受取利息・配当金収入	97,782	97,978	▲ 196
雑収入	103,523	107,919	▲ 4,396
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,550,235	2,480,191	70,044
その他の収入	1,047,409	1,047,820	▲ 411
資金収入調整勘定	▲ 2,611,711	▲ 2,611,778	67
前年度繰越支払資金	6,891,372	6,891,372	0
<b>収入の部合計</b>	<b>16,697,254</b>	<b>16,634,574</b>	<b>62,680</b>

## 支出の部

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,592,931	3,592,927	4
教育研究経費支出	1,402,228	1,344,257	57,971
管理経費支出	273,891	261,225	12,666
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	50,649	50,649	0
施設関係支出	84,560	84,559	1
設備関係支出	483,452	454,536	28,916
資産運用支出	4,520,000	4,520,000	0
その他の支出	71,498	88,524	▲ 17,026
(予備費)	27,785	0	27,785
資金支出調整勘定	▲ 34,447	▲ 32,981	▲ 1,466
翌年度繰越支払資金	6,224,707	6,270,879	▲ 46,172
<b>支出の部合計</b>	<b>16,697,254</b>	<b>16,634,574</b>	<b>62,680</b>

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対するすべての収入及び支出の内容、並びに支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするための計算書であります。

# 活動区分別資金収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

## 教育活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
学生生徒納付金収入	5,159,092
手数料収入	139,450
特別寄付金収入	54,825
経常費補助金収入	884,364
付随事業収入	37,939
雑収入	107,919
<b>教育活動資金収入計</b>	<b>6,383,590</b>
人件費支出	3,592,927
教育研究経費支出	1,344,257
管理経費支出	261,225
<b>教育活動資金支出計</b>	<b>5,198,408</b>
<b>調整勘定</b>	<b>16,509</b>
<b>教育活動資金収支差額</b>	<b>1,201,691</b>

## 施設整備等活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
施設設備寄付金収入	18,792
施設設備補助金収入	6,609
施設整備準備引当特定資産取崩収入	800,000
<b>施設整備等活動資金収入計</b>	<b>825,401</b>
施設関係支出	84,559
設備関係支出	454,536
施設整備準備引当特定資産繰入支出	800,000
<b>施設整備等活動資金支出計</b>	<b>1,339,095</b>
<b>調整勘定</b>	<b>2,396</b>
<b>施設整備等活動資金収支差額</b>	<b>▲ 511,298</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>690,393</b>

## その他の活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
有価証券売却収入	2,320,000
貸付金回収収入 他	18,345
受取利息・配当金収入	97,978
<b>その他の活動資金収入計</b>	<b>2,436,323</b>
借入金等返済支出	50,649
有価証券購入支出	3,720,000
貸付金支払支出 他	27,208
<b>その他の活動資金収支差額</b>	<b>3,797,857</b>
<b>調整勘定</b>	<b>50,649</b>
<b>その他の活動資金収支差額</b>	<b>▲ 1,310,886</b>
<b>支払資金の増減額</b>	<b>▲ 620,493</b>
<b>前年度繰越支払資金</b>	<b>6,891,372</b>
<b>翌年度繰越支払資金</b>	<b>6,270,879</b>

活動区分資金収支計算書は、当該年度の教育活動、施設整備等活動、財務活動を資金の流れに応じて区分表示するための計算書であります。

## 事業活動収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

## 教育活動収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	5,159,249	5,159,092	157
手数料	131,748	139,450	▲ 7,702
寄付金	57,242	54,825	2,417
経常費補助金	884,825	884,364	461
付随事業収入	41,659	37,939	3,720
雑収入	103,593	108,096	▲ 4,503
<b>教育活動収入計</b>	<b>6,378,316</b>	<b>6,383,767</b>	<b>▲ 5,451</b>
人件費	3,591,510	3,591,442	68
教育研究経費	1,911,761	1,852,809	58,952
管理経費	287,302	274,634	12,668
徴収不能額等	0	0	0
<b>教育活動支出計</b>	<b>5,790,573</b>	<b>5,718,885</b>	<b>71,688</b>
<b>教育活動収支差額</b>	<b>587,743</b>	<b>664,882</b>	<b>▲ 77,139</b>

## 教育活動外収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	97,782	97,978	▲ 196
その他の教育活動外収入	0	0	0
<b>教育活動外収入計</b>	<b>97,782</b>	<b>97,978</b>	<b>▲ 196</b>
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>教育活動外収支差額</b>	<b>97,782</b>	<b>97,978</b>	<b>▲ 196</b>
<b>経常収支差額</b>	<b>685,525</b>	<b>762,860</b>	<b>▲ 77,335</b>

## 特別収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	36,088	41,319	▲ 5,231
<b>特別収入計</b>	<b>36,088</b>	<b>41,319</b>	<b>▲ 5,231</b>
資産処分差額	16,107	16,106	1
その他の特別支出	0	0	0
<b>特別支出計</b>	<b>16,107</b>	<b>16,106</b>	<b>1</b>
<b>特別収支差額</b>	<b>19,981</b>	<b>25,214</b>	<b>▲ 5,233</b>
<b>予備費</b>	<b>29,779</b>	<b>0</b>	<b>29,779</b>
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>675,727</b>	<b>788,073</b>	<b>▲ 112,346</b>
<b>基本金組入額</b>	<b>▲ 351,445</b>	<b>▲ 306,991</b>	<b>▲ 44,454</b>
<b>当年度収支差額</b>	<b>324,282</b>	<b>481,083</b>	<b>▲ 156,801</b>
<b>前年度繰越収支差額</b>	<b>▲ 2,249,329</b>	<b>▲ 2,249,330</b>	<b>1</b>
<b>基本金取崩額</b>	<b>22,536</b>	<b>11,403</b>	<b>11,133</b>
<b>翌年度繰越収支差額</b>	<b>▲ 1,902,511</b>	<b>▲ 1,756,844</b>	<b>▲ 145,667</b>

事業活動収支計算書は、当該年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、経常外の活動に対応する収入及び支出の均衡状態を明らかにするための計算書であります。

## (参考)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
事業活動収入計	6,512,186	6,523,064	▲ 10,878
事業活動支出計	5,836,459	5,734,991	101,468

## 貸借対照表

平成30年3月31日

## 資産の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	差異
<b>固定資産</b>	<b>25,183,537</b>	<b>24,123,310</b>	<b>1,060,227</b>
有形固定資産	17,037,461	17,210,168	▲ 172,707
土地	5,431,038	5,431,038	0
建物	8,370,373	8,571,471	▲ 201,098
構築物	571,213	613,669	▲ 42,456
機器備品	1,123,056	1,064,635	58,421
図書	1,514,721	1,508,727	5,994
車輛	22,341	20,628	1,713
建設仮勘定	4,720	0	4,720
特定資産	3,850,467	3,850,467	0
その他の固定資産	4,295,609	3,062,675	1,232,934
<b>流動資産</b>	<b>7,441,629</b>	<b>7,836,565</b>	<b>▲ 394,936</b>
現金預金	6,270,879	6,891,372	▲ 620,493
その他の流動資産	1,170,750	945,193	225,557
<b>資産の部合計</b>	<b>32,625,166</b>	<b>31,959,875</b>	<b>665,291</b>

## 負債の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	差異
<b>固定負債</b>	<b>1,552,395</b>	<b>1,577,800</b>	<b>▲ 25,405</b>
長期借入金	8,580	34,062	▲ 25,482
長期預り金	9,811	8,249	1,562
退職給与引当金	1,534,005	1,535,489	▲ 1,484
<b>流動負債</b>	<b>2,684,275</b>	<b>2,781,652</b>	<b>▲ 97,377</b>
短期借入金	25,482	50,649	▲ 25,167
前受金	2,480,191	2,525,539	▲ 45,348
その他の流動負債	178,602	205,464	▲ 26,862
<b>負債の部合計</b>	<b>4,236,670</b>	<b>4,359,452</b>	<b>▲ 122,782</b>

## 純資産の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	差異
<b>基本金</b>	<b>30,145,340</b>	<b>29,849,752</b>	<b>295,588</b>
第1号基本金	29,523,873	29,228,285	295,588
第3号基本金	200,467	200,467	0
第4号基本金	421,000	421,000	0
<b>繰越収支差額</b>	<b>▲ 1,756,844</b>	<b>▲ 2,249,330</b>	<b>492,486</b>
翌年度繰越収支差額	▲ 1,756,844	▲ 2,249,330	492,486
<b>純資産の部合計</b>	<b>28,388,496</b>	<b>27,600,423</b>	<b>788,073</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>32,625,166</b>	<b>31,959,875</b>	<b>665,291</b>

減価償却累計額	12,365,094	12,079,206	285,888
基本金未組入額	0	0	0

貸借対照表は、「財政状態の健全性」および「必要資産の保有状況」についての計算書であります。

## 財産目録

平成30年3月31日

(単位:千円)

概要	
1.資産総額	32,625,166
内 基本財産	17,481,486
運用財産	15,143,680
2.負債総額	4,236,670
3.正味財産	28,388,496

(単位:千円)

科目	金額
土地	143,209 m <sup>2</sup> 5,424,870
建物	79,488 m <sup>2</sup> 8,370,373
構築物	431 点 568,853
図書	278,280 冊 1,514,721
教具・校具・備品	13,645 点 1,123,056
車輛	11 台 22,341
基本財産	建設仮勘定 1 口 4,720
	借地権 2,867 m <sup>2</sup> 16,500
	電話加入権 49 口 3,055
	管理用ソフトウェア 1 本 5,460
	教育用ソフトウェア 1 本 211,009
	第3号基本金引当資産 2 口 200,467
	保証金 2 口 16,062
資産額	預金・現金 6,270,879
	積立金 3,650,000
	その他資産 110
	長期有価証券 3,951,400
	有価証券 1,020,000
	前払金 22,925
運用財産	貯蔵品 65
	長期貸付金 115 人 83,433
	不動産：土地 1,359 m <sup>2</sup> 6,169
	不動産：構築物 4 点 2,360
	長期未収入金 8,579
	未収入金 111,721
	短期貸付金 112 人 15,716
	仮払金 322
<b>資産総額</b>	<b>32,625,166</b>
負債額	長期借入金：愛知県私学振興事業財団 8,579
固定負債	長期預り金：退職金財団交付金 9,811
	退職給与引当金 1,534,005
流動負債	短期借入金：愛知県私学振興事業財団 25,482
	未払金 32,374
	前受金 2,480,191
	預り金 146,228
<b>負債総額</b>	<b>4,236,670</b>
<b>正味財産(資産総額-負債総額)</b>	<b>28,388,496</b>